



消防学校 ニュース



令和6年10月号

初任科 実科査閲

～訓練の成果を披露する晴れ舞台～

初任科第95期110人は、消防職員として必要な知識・技術を習得するため、寮生活を送りながら約6か月間(令和6年4月4日～9月25日)の厳しい教育訓練を受けてきました。

その集大成として、訓練成果を確認・披露するため、9月10日(火)に各種訓練の査閲を実施しました。初任科生は、学校長、各消防本部消防長、そして御家族等に向け、消防学校で培った気力、体力、技術の全てを余すことなく、必死に声を出し、全力で訓練成果を精一杯披露しました。その場にいた誰もが、初任科生の成長を体感し頼もしい姿に満足していたと思います。

【実科査閲次第】

- | | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 開 会 | 13:00 |
| 2 | 訓練開始 | 13:20 |
| | 訓練礼式 | |
| | 機器取扱訓練 | |
| | 消防活動訓練 | |
| | 消防活動応用訓練 | |
| | 救助訓練 | |
| | 一斉放水 | |
| 3 | 閉 会 | 16:00 |



学生入場

【開 式】



学校長挨拶



酒井静岡県危機管理部長挨拶



池田静岡県消防長会会長挨拶





【訓練礼式】



【機器取扱訓練】



【消防活動訓練】



【消防活動応用訓練】



【救助訓練】



【一斉放水】

（担当教官コメント）

初任科（第95期）実科査閲は、消防職員として必要な気力、体力及び精神力の向上や、一般的な消防活動に対応するために必要な知識、技術等の習熟度を確認するとともに、学生主体の企画・運営を通して消防人としての責任感・判断力の向上を図ることを目的に実施しました。

各実科班は、22人の学生と安全管理を担う担当教官で編成され、班長と副班長を中心に、ナレーションを含めた訓練概要を組み立てました。自分たちで検討し構成した訓練を実施しては修正を加え、より安全・確実・迅速な活動を目指して訓練を重ねてきました。この期間中、連日の猛暑となり、熱中症対策を万全に訓練を行い、準備を進め実科査閲当日を迎えました。

今回も来賓に加え、御家族の観覧を受け入れましたが、御家族の来場者数が約310人と非常に多く、御家族の想いがどれだけ深いのかを実感しました。来賓と御家族が着席し、今までにない熱気を帯びた訓練会場の雰囲気にも包まれた後、開会により学生たちが入場しました。

来賓及び御家族の眼差しを背に受けた学生たちは、意識、表情、姿勢、行動などの節度が完成した一糸乱れぬ縦隊で連続呼称のかけ足で入場し、今から行われる訓練への期待を更に高めました。開会直後に行った訓練礼式は、規律と節度のある団体行動を披露し、機器取扱訓練は基礎訓練で完成度の高い資器材取扱いを披露しました。消防活動訓練は各隊が連携のとれた迅速な消火活動を披露し、消防活動応用訓練は基礎訓練の技術を駆使した実践的な訓練を披露し、救助訓練は安全管理を徹底した確実で迅速な救出を披露しました。

最後は学生全員が参加した一斉放水が行われ、その場にいた全ての人が、学生たちの頼もしい姿を目の当たりにして感動を覚えました。学生たちは半年間の厳しく、苦しく、つらい教育訓練を乗り越え、努力や苦勞が報われたと全身で達成感を味わっているようでした。

今回の実科査閲は初任教育の一部です。これから始まる消防人生ではほんの一瞬の出来事かもしれませんが、学生たちがこの実科査閲で得た経験は、今後の消防人生に生きてくると思います。

自信に満ちあふれ、見事に成長した学生たちの顔は今でも忘れません。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）



初任科修了式

～消防学校からの旅立ち～

9月25日（水）に修了式が執り行われました。

今期は連日の記録的な猛暑により、熱中症警戒アラートが発令される高温環境下での厳しい訓練が何日も続きました。過酷な状況が続いても、学生たちは、共に協力し、励まし助け合いながら日々を乗り越えました。学生たちにとって、今までの人生で最大の変化を遂げることとなった、教育時間 801 時間、教育日数 115 日に及ぶ初任科第 95 期は、修了となりました。

【修了式次第】

- 一. 開式の辞
- 一. 国旗に対する敬礼
- 一. 国歌斉唱
- 一. 消防殉職者に対する黙祷
- 一. 修了生氏名発表
- 一. 修了証書授与
- 一. 表彰
- 一. 学校長式辞
- 一. 静岡県危機管理監祝辞
- 一. 静岡県消防長会会長祝辞
- 一. 修了生代表答辞
- 一. 閉式の辞



学校長から修了生代表へ修了証書授与

表彰一覧

種類	氏名	所属
静岡県危機管理監賞	飯田 大地	静岡市消防局
静岡県消防長会会長賞	二村 峻丞	掛川市消防本部
静岡県消防学校長賞	金原 圭佑	浜松市消防局
	石井 飛雄馬	静岡市消防局
	末永 昂士	御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
精励賞	原口 翔	富士市消防本部
	得居 永裕	浜松市消防局
	後藤 力	御前崎市消防本部
	山田 琢貴	御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
	金澤 水月	静岡市消防局
功労賞	久保 大稀	富士山南東消防本部
	菊池 穂	静岡市消防局
	飯田 大地	静岡市消防局
	高橋 和也	駿東伊豆消防本部



静岡県危機管理監賞表彰



静岡県消防長会会長賞表彰



静岡県消防学校長賞表彰

【修了生代表 答辞】

残暑厳しい中にも、少しずつ秋の訪れを感じられる季節となりました。

この半年間、試練を乗り越え出会った百十名の仲間とともに消防士としての土台作りに励み、目標に向かって常にお互いを高め合ってきました。そんな汗や涙が染み込んだグラウンドも山にこだまする声も全てが今、愛おしく感じます。今、私の後ろで前方を見つめている仲間の心の中では、この半年間の様々な場面が映っていると思います。

全ては令和六年四月四日の入校式から始まりました。門をくぐるとグラウンドは消防車両で埋め尽くされ、屋内訓練場の前には微動だにしない入校生の姿が目に入り、全身に力が入ったのを感じています。初日はやらなければいけないことが多く、不安と焦りからあつという間に終わってしまいました。そこから生活に慣れる間もなく、座学や訓練礼式、通常点検が始まり、消防吏員として、さらに一人の立派な社会人になるための基礎をたたき込まれる日々が始まり、「服装の乱れは心の乱れ」「消防は隊で動く」「一つのミスが取り返しのつかない事態を招く」という消防人としての心得を学びました。制服にはしわ一つなく、革靴には太陽の光が反射し、見た目も心も輝く消防士を目指し日々取り組みました。しかし現実には厳しく、最初は授業開始の集合時間にも間に合わない集団で、教官の喝が学校の至る所で聞こえる毎日でした。「できる事は一回でやれ」という教官の言葉に気付かされ、「大きい声を出すこと」「移動はかけ足」「時間の厳守」など当たり前前の小さな一歩を踏み出した四月でした。

五月には総代、副総代が決まり、九十五期が少しまとまりを見せた頃、第一回野外訓練が実施されました。二十キロ近い荷物を背負い、浜石岳山頂を目指し歩き続けました。山道の途中、後ろを振り返ると、仲間の顔は足下を見つめていました。霧のかかるゴールも見えない急勾配が続く山道を弱音を吐かず、どんなに辛くても目標達成の為に足を止めることなく前に進み続ける姿に胸が熱くなり、自分自身のことは後回しに、夢中で声を掛けていたことを思い出します。そう思えたこと思わせてくれたことに仲間の素晴らしさを今、改めて実感しています。

六月に入ると体力向上期間に入り、各実科訓練も日が経つにつれ厳しく、複雑な内容へと変化していきました。それと同時に自分自身に足りないものが明確になり、課外時間には、自分自身と向き合う時間が増えていきました。そしてあつという間に時は経ち、七月には各所属に戻り実務研修が行われました。実際に目にした現場では、想像していたことよりも遙かに厳しく、「市民を守る」ということがどういうことなのか、「災害と向き合う」ということがどれほど辛く、過酷なことなのかを先輩方の言葉や出勤していく姿を見て、自分の考えを見つめ直す貴重な時間となりました。

八月に入り第二回野外訓練が始まりました。異常なまでの猛暑に教官方にもあらゆる対策をとっていただき実現することができました。「一歩」という全体目標を立て、「止」まることなく「少」しずつ何が何でも前に進む。「その先に待つ大切な人の手を掴みにいけ」教官の熱い言葉をいただきながら全員で完歩し、本当の目的である人命救助のスタートラインに立つことができました。

地道でも歩むことをやめず進んできた九十五期の集大成である実科査閲。各班の班長を中心に最高の舞台をつくり上げるべく、何度も話し合いや想定訓練を繰り返し、これ以上ない最高の姿を披露することができました。最後の一斉放水で旗を振り上げた瞬間の景色を見た時、達成感とともにどこか寂しい気持ちが込み上げてきました。

風のように流れていった半年間。しかしその中身は何よりも深く、全てが昨日のこのように感じます。そんな初任科教育も本日、修了を迎えます。その門出に立った私たちの制服にはしわ一つなく、消防士としてのあるべき姿、覚悟が今、ここにあります。消防士として大切なことは教官方を通じ、仲間が全て教えてくれました。規律により集団がまとまる大切さを知り、一人では乗り越えられないことも、支え合い、全員で乗り越えるという「隊」の素晴らしさ。衣食住を共にし、それぞれが目標に向かって努力し、競い合ってきたからこそ今の私たちがあると思います。そんな私たちを陰ながらもずっと支えてきてくれた家族。「頑張れ」の一言が、困難に立ち向かう活力になっていたこと。多くの方の支えと前に進み続けた自分自身があり、今、この瞬間があると思います。この消防学校での全ての学び、大切な仲間と最高の時間を「消防精神」と名付け、明日を全うする活力とします。

九十五期は何度躓いても立ち上がり、どれだけ時が経とうとも初心を忘れず、日々、国民の生命、身体及び財産を守るように尽力します。

最後になりましたが、学校長をはじめ、教官、職員の皆様の益々の御健勝と御多幸をお祈りする

とともに、静岡県消防学校の更なる御発展を祈念しまして、答辞とさせていただきます。



令和六年九月二十五日
初任科第九十五期 修了生代表
富士山南東消防本部 久保 大稀

クラス担任から修了生へ修了証書授与



1 組



2 組



3 組



初任科担当教官から修了生たちへ

例年になく猛暑が続き、気力・体力・精神力を毎日限界まで追い込こんで励んだ訓練が懐かしく思い、少し寂しさを感じています。

この春に、長く険しい消防の世界に飛び込み、先ず初めに消防学校に入校してきた学生には、市民の皆さんから期待され、信頼される消防士となってもらうために、各教官が全力で様々なことを教授しました。そして、学生一人一人が理想の消防士に少しでも近づけるように、「育成」と「指導」を行いました。

教育方針としては、「規律の厳守」「技術の錬磨」「体力気力の練成」の3つの校訓を体現し、礼節を重んじて、明朗で秩序正しい団体生活を維持するように指導しました。

初任科（第95期）のスローガンは「消防精神」としました。これは「平素から知性を磨き 訓練、技法、修養等を通じて 精神力を高め 気迫のある人間としての 心構えが必要である」という意味があり、消防人として精神・心が、全ての物事の土台として大切だからと思い、このスローガンを掲げました。

私が最初に伝えたことは、「消防士の前に社会人、当たり前のことをしっかりとやる、人の話を聞く、分からないことは聞く。知識や技術がなくてもできること、挨拶をちゃんとする、声を出す、ルールを守る」でした。これは人として当たり前ができるように、最後まで口うるさく言ってきました。それはなぜか、心を整えなければ消防人としての成長はないと思うからです。「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば人生が変わる。」ウィリアム・ジェイムズの名言があります。ほとんどの学生が高校・大学から卒業して消防士になったので、先ず学生から社会人、そして消防人へと「心」を変えて欲しいと思い、4月当初の通常点検後の訓示で学生たちにこの言葉を伝えました。修了式前日に君たちからいただいた寄せ書きの中に、「心が変われば～人生が変わる、この言葉を決して忘れず頑張ります」と書かれていて、ちゃんと伝わったんだと嬉しく思いました。

所属に戻っても、学ぶことに終わりはありません。「訓練に終わりなし」、常にバージョンアップしてってください。また、皆さんが身につけた、ものの見方や考え方、人を理解し思いやる人間性こそ、時代が変わっても変わらない価値として大切にしてください。そして、初任科第95期の「絆」を一生の宝物にしてください。

「消防精神」この言葉を胸に刻み、所属に戻った君たちが、大きな花を咲かせ、活躍することを期待しています！ またどこかで必ず会いましょう！！
再会の合言葉は『消防精神』



【修了宣言】

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）



初任科（第95期）修了おめでとう!!

校外研修



9月19日（木）から9月20日（金）までの2日間、校外研修を実施しました。

この研修の目的は、『関係機関や施設等を視察することにより、消防職員としての知識向上を図ること』です。

近年、コロナ感染症の影響によって自粛していましたが、令和元年を最後に5年ぶりの実施となりました。

1日目は、帝国繊維株式会社（テイセン）下野工場。2日目は、横浜市民防災センター、横浜市消防局本部庁舎を視察させていただきました。



(担当教官コメント)

研修先において、学生たちは非常に興味を持って話を聞いているように感じました。

学生達には、「今後は君たちが市民に対して説明する立場になるので、そうした目線で研修に臨むように。講師の方の会話術、どのような言葉を選択すれば相手が分かりやすく理解できるか。そうした点に注目するように。」と伝えました。

消防に関わる施設を見て回る中で、消防人としての見聞を高め、感じた気づきを、今後の消防業務に役立てることができる研修になったのではないかと思います。

教務課主査 仲村 直樹（下田消防本部から派遣）

消防団員現場指揮課程 (第11期)



9月29日(日)に消防団教育指揮幹部科現場指揮課程を開催し、県内の消防団員77人が入校しました。本課程は、教育時間数が14時間と定められているため、一日の教育訓練で実施しきれない座学については、事前にeラーニングを受講していただいております。

eラーニングでは、静岡県消防協会松浦会長の講話、静岡大学牛山教授による水災害、学校教官による安全管理を動画配信し、学習していただきました。

当日は、消防庁のドローン運用アドバイザーによるドローン取扱訓練、多数傷病者対応、火災対応要領訓練、重量物除去、破壊機具取扱訓練、消防活動訓練など多岐にわたる内容を学習していただきました。

(担当教官コメント)

本課程では、災害現場における指揮活動を習得していただくことを目的に、各種訓練を実施させていただきました。火災防ぎょ訓練では、指揮活動の基本として「実態把握、状況判断、決断、命令、実行、報告、評価」の指揮のサイクル等を学び、参加した団員の皆様から「現場における指揮者の重要性を認識した」との声をいただきました。

各団員の皆様には積極的に訓練に取り組んでいただき、予定していたスケジュールどおり訓練を実施することができました。

本課程で学んだ知識、技術を各消防団で共有していただき、地域防災力の更なる向上にむけて訓練を継続していただけたら幸いです。

教務課主査 山口 知宏 (浜松市消防局から派遣)

県新規採用職員研修

～静岡県は私たちが守る～



規律訓練



救急実技



屋内消火栓放水訓練



要救助者搬送訓練

10月2日(水)から10月4日(金)まで、県の新規採用職員の後期研修が実施されました。

大規模地震等の様々な危機対策において中心的な役割を担う県職員としての自覚を促すことを目的に、各種訓練を実施しました。

研修生は、初めて臨む訓練に戸惑いながらも、仲間と協力し精一杯取り組みました。訓練終了時には、各人の行動はきびきびとし、顔つきも引き締まり、災害時に県民から信頼される県職員としての心構えを改めて学んだことと思います。

三沢校長から一言

県から出向し、天竜浜名湖鉄道社長として活躍している松井宜正氏が静岡新聞の「窓辺」を執筆しています。松井氏と私は同級で、阪神淡路大震災の応援にともに第一陣として派遣されたときに知り合い、以来仲良くしています。特技の書道を活かして鉄印帳が大人気だった前社長(現 菊川市長)の後を継ぎ、エヴァンゲリオンやゆるキャン△のラッピング列車を走らせるなど、天浜線を盛り上げています。「窓辺」と「消防学校ニュース」では読者の数が違いますが、私も全県に消防学校をアピールするつもりで書いていきたいと思っています。

さて、初任科が修了し、消防学校は一気に静かになりました。これからは専科の季節です。昨日(10月22日)午前は救助科の訓練に自衛隊が参加してくれました。練馬駐屯地からかなりの人数です。訓練内容はテロへの対処について。消防は武器を持たないため、あくまで後方支援、前戦は自衛隊と警察が担います。もちろん、こんなことはない方がいいに決まっていますが、救助科の面々はなかなかない機会に真剣に取り組んでいました。そして午後は昨年に続いて救助犬の出番です。救助犬は県内各地の訓練に引っ張りだこ、とても忙しいとのこと。生後6か月の真っ黒なシェパードも登場、身体も大きく堂々としており、とても子犬には見えませんでした。訓練終了後は大人のシェパード2頭が吠えて居残り訓練をアピール、決して調教師さんに促されているようではありません。放すと障害物に突進し、捜索訓練を2回繰り返していました。もの言わぬ彼らですが、やる気をアピールした場面でした。

練馬駐屯地の皆さん、NPO法人災害救助犬静岡の皆さん、ありがとうございました。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索